

# 令和5年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第11号 (果樹)

令和6年3月15日発表 (対象期間: 令和6年3月15日~5月中旬)

## ●PCでアクセス

ひろしま病害虫情報

検索

掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>

## ●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報

QRコードはこちら →



お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

〒739-0151 東広島市八本松町原6869

電話: 082-420-9662 (直通)

※次回の予報発表は令和6年5月中旬ごろです。

1

## 果樹全般病害虫について

### 果樹カメムシ類 (チャバネアオカメムシ)

予報

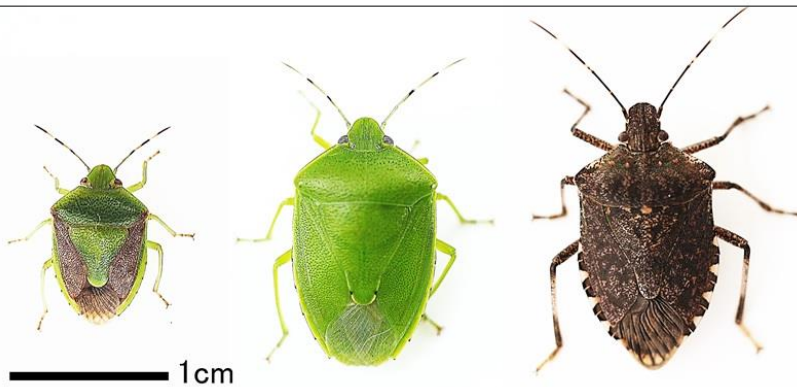
やや多

#### 予報の根拠

- (+): 多発要因
- (±): 平年並
- (-): 少発要因

●令和5年12月~令和6年1月に行ったチャバネアオカメムシ越冬量調査の結果、捕獲地点率は**36.4%** (平年18.5%、図1)、平均虫数は**0.76頭/地点** (平年0.27頭、図2)で、過去10年と比較して**やや多い**越冬量でした (+)。

※5月以降はフェロモントラップ調査データを、ひろしま病害虫情報に公開しますので、防除対策の参考にしてください。



左からチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ

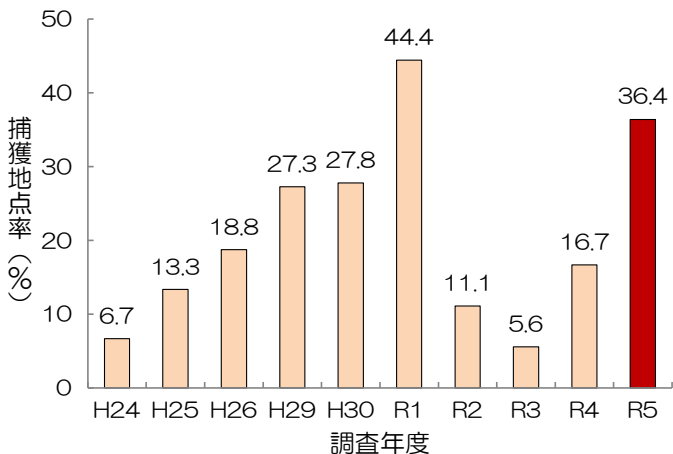


図1 チャバネアオカメムシの捕獲地点率

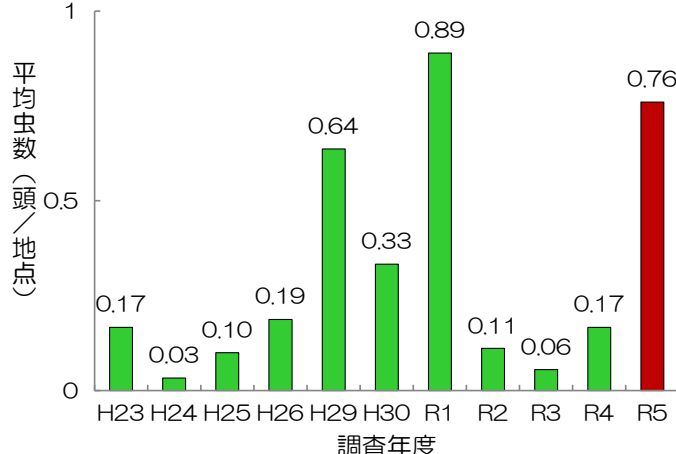

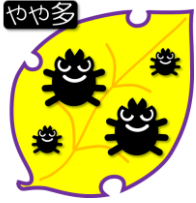




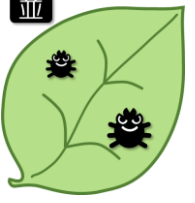
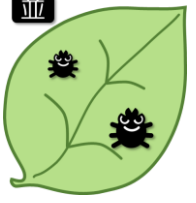




図2 チャバネアオカメムシの平均虫数

※H27、H28は調査地点数が少ないためデータから除外した。

**越冬成虫が多いため、ほ場の見回りを行うなど、春先から注意しましょう。**

(越冬量調査の対象はチャバネアオカメムシですが、他の果樹カメムシ類も同様に注意が必要です。)

病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項
かいよう病	西部 		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前作の着果過多や寒波の影響により、樹勢が著しく低下している場合は銅剤の散布を控えましょう。</li> <li>● ハダニまたはカイガラムシ防除で、高度精製マシン油乳剤を散布した場合、銅剤の散布は間隔を14日空けて行いましょう。</li> </ul>
	東部 		
ミカンハダニ			<ul style="list-style-type: none"> <li>● 冬季にマシン油乳剤散布を行っていないほ場では、必ず3月中の高度精製マシン油乳剤散布を行いましょう。</li> </ul>
そうか病			<ul style="list-style-type: none"> <li>● 発生が確認された葉は、直ちに除去し、園外で処分しましょう。</li> <li>● 基幹防除を徹底しましょう。</li> </ul>
ヤノネカイガラムシ			<ul style="list-style-type: none"> <li>● 移動性が低く圃場の一部に集中して発生することが多いため、寄生部位を中心に周辺の枝葉、果実の状況を確認し、見つけ次第捕殺します。</li> <li>● 発生園で、冬季にマシン油乳剤の散布を行っていない場合は、必ず3月中に高度精製マシン油乳剤を散布しましょう。</li> </ul>

※ほ場によっては、落葉や枝の枯れこみなど樹勢が低下している樹が見られました。3月の病害虫防除は非常に重要ですが、樹勢が著しく低下している場合は、高度精製マシン油乳剤や銅剤の散布を控えましょう。

#### 【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

- 「多」 : 1番目（最多年）と同程度以上  
「やや多」 : 2～3番目と同程度  
「並」 : 4～7番目と同程度  
「やや少」 : 8～9番目と同程度  
「少」 : 10番目（最少年）と同程度以下

①かいよう病	現況	西部：やや多 東部：やや少	予報	西部：やや多 東部：やや少
予報の根拠	<p>● 西部地域において、発生地点率は50.0% (平年43.1%)、発病葉率は3.4% (平年2.3%) であり、平年よりやや多い発生でした (+)。</p> <p>● 東部地域において、発生地点率は38.5% (平年43.2%)、発病葉率は1.2% (平年2.1%) であり、平年よりやや少ない発生でした (-)。</p> <p>● 向こう1か月の気温及び降水量は、平年並または高い(多い)確率がともに40%です(±~+)。</p>			
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因				

【防除上の注意事項】

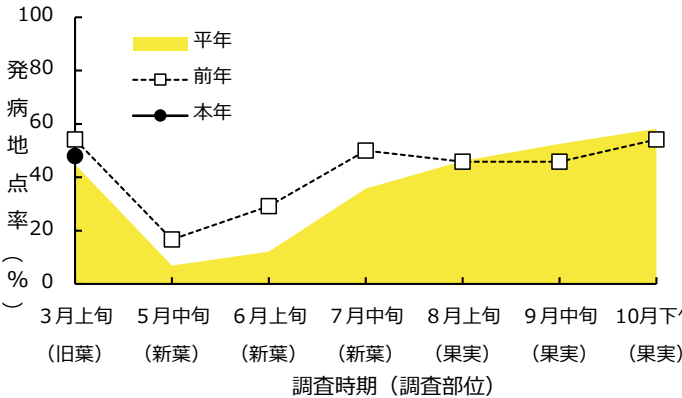
- 発病した葉や枝、果実は伝染源となりますので樹上から除去し、ほ場外に持ち出しましょう。
- 前作の着果過多や寒波の影響により樹勢が著しく低下している場合は銅剤の散布を控えましょう。
- 銅剤と高度精製マシン油乳剤との散布間隔は14日以上あけましょう。
- 散布適期は、発芽前です。



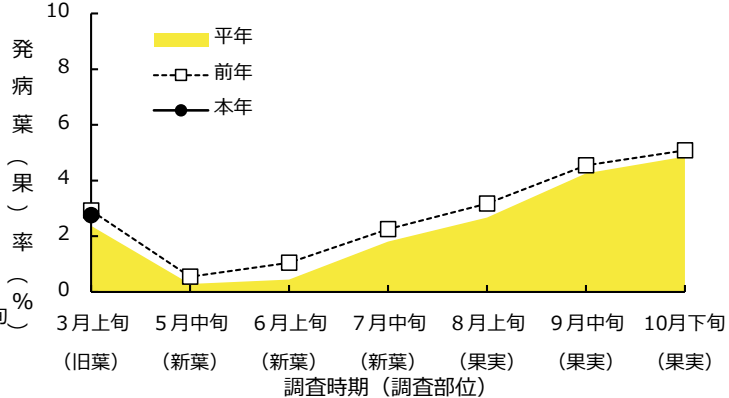
かいよう病斑

【巡回調査データ】 ※県内全域まとめ

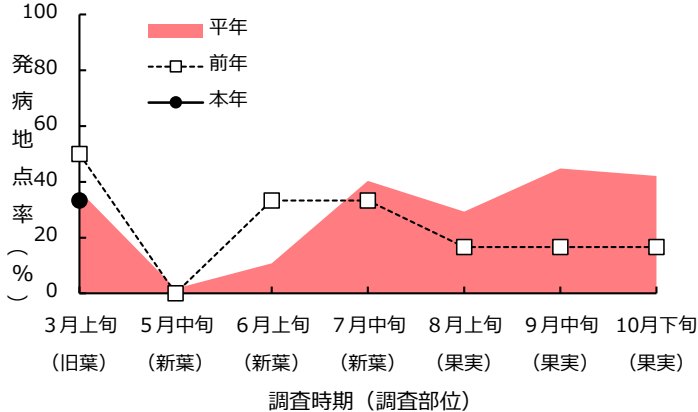
かいよう病 (レモン) 発病地点率 (県全域24地点)



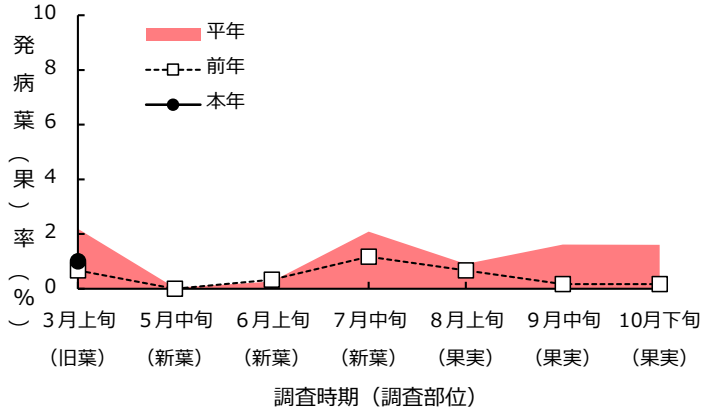
かいよう病 (レモン) 発病葉 (果) 率 (県全域)



かいよう病 (ネーブル) 発病地点率 (県全域6地点)



かいよう病 (ネーブル) 発病葉 (果) 率 (県全域)



②ミカンハダニ

現況

やや少

予報

やや少

予報の根拠

●巡回調査では、発生地点率は16.7% (平年29.8%)、寄生葉率は0.2% (平年2.1%) で、平年よりやや少ない発生でした (-)。

(+) :多発要因  
(±) :平年並  
(-) :少発要因

●向こう1か月の気温は平年並または高い確率がともに40% (±~+)、降水量は平年並または多い確率がともに40%です (±~-)。

【防除上の注意事項】

● 冬季にマシン油乳剤散布を行っていないほ場では、必ず3月中に高度精製マシン油乳剤散布を行いましょう。

●ただし、寒波等で樹勢が低下している場合は、散布により落葉する場合がありますので注意します。



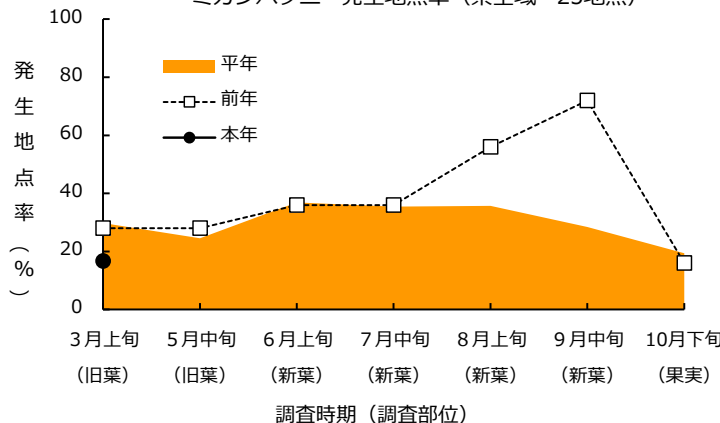
雌成虫  
(体長0.5mm程度)



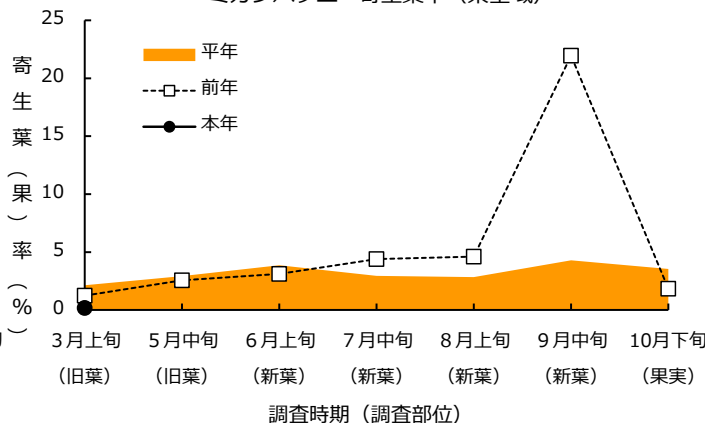
葉のかすり症状

【巡回調査データ】

ミカンハダニ 発生地点率 (県全域 25地点)



ミカンハダニ 寄生葉率 (県全域)



中国地方1か月予報

(広島地方気象台3月14日発表、3月16日から4月15日までの天候見通し)

- 天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
- 平均気温は、平年並または高い確率とともに40%です。
- 降水量は、平年並または多い確率とともに40%です。
- 日照時間は、平年並または少ない確率とともに40%です。

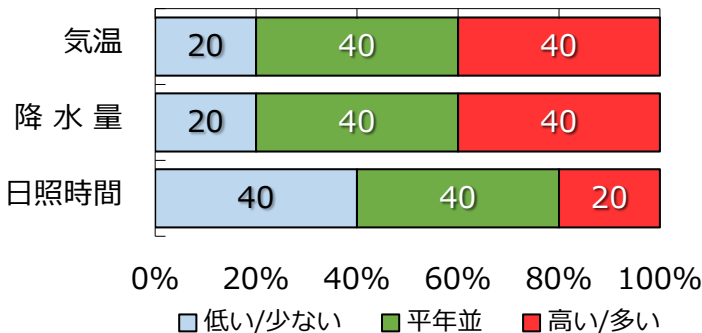


図1 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率 (%)

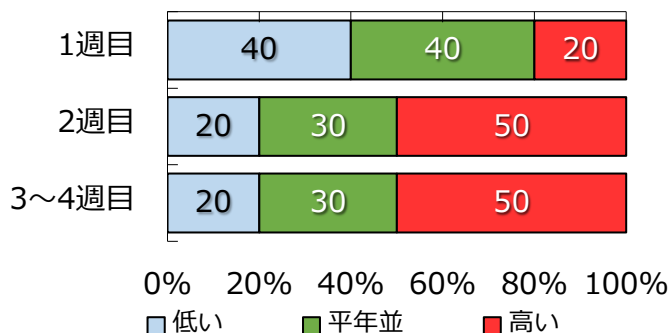


図2 向こう1か月の気温経過の各階級の確率 (%)